

## IV-31

大学土木工学カリキュラムへの  
ボランティア活動の導入

○学生員 花嶋温子

近畿大学理工学部 正 員 江藤剛治

近畿大学理工学部 正 員 三星昭宏

## 1. はじめに

「土木技術者の在り方」として何が重要であるかはもう少し議論が必要だが、その中に「生きがいをもつ（主体的に行動する、他の人の役に立つことの喜び）」や技術の進歩や社会の変遷に対応できる「柔軟性をもつ」という項目は必ず含まれているだろう。これらを知るのではなく判るための場としてボランティア活動がある。

近畿大学の土木工学科では、土木技術者の全人格的育成のための新たな試みとして、ボランティア活動によって単位を認定する「社会奉仕実習」を平成7年度から開講する。それに先立ち、平成6年4月から4年次学生を対象に試験的实施を行い、その教育活動の評価結果をこの場で発表する。予稿の段階では、準備状況と効果の測定計画のみを記す。

## 2. 大学教育へのボランティア活動の導入

大学の教育科目にボランティア活動を導入するのは、まさに社会の要求であるとも言える。昨年11月に行われた総理府の世論調査<sup>1)</sup>によると、61.9%の人が「ボランティア活動に関心がある」と答え、31.3%の人が「ボランティア活動を学校教育において重視する」と答えている。

表1に示すように、平成4年以降、ボランティア活動に単位を認定する大学が増えている。現在検討中の大学も含めてこの傾向は拡大しそうである。各講座の教育目的は、生き方を考えさせるため、社会（地域）参加、ボランティア活動そのものの理解など様々だが、現在までの調査範囲では近畿大学以外すべて文系の学部、学科である。

## 3. 近畿大学理工学部土木工学科のボランティア科目

近畿大学理工学部土木工学科では、平成6年度の新入生から「建設・設計コース」と「計画・環境コース」とにコース分けをし、彼らが2年次生となる平成7年度から、計画・環境コースの学生を対象に、ボランティア活動によって単位を認定する「社会奉仕実習」を開講する。全く新しい試みなので、現在学科内で検討中だが、その概要を表2に示す。

表1 ボランティア活動などを単位として認める正規講座

| 大学・学部名                    | 講座名                         | 開始年度      |
|---------------------------|-----------------------------|-----------|
| 武庫川女子大学<br>文学部人間関係学科      | 社会参加講座                      | 平成6年度     |
| 信州大学 経済学部                 | 現代社会論<br>特別実習科目             | 平成4年度     |
| 大正大学<br>(全学共通選択科目)        | ボランティアゼミ                    | 平成6年度     |
| 近畿大学 理工学部<br>土木工学科        | 社会奉仕実習                      | 平成7年度     |
| 甲南大学 経営学部                 | OCA<br>「地域ボランティア活動」         | 平成7年度     |
| 亜細亜大学<br>(一般教育科目)         | ボランティア論                     | 平成5年度     |
| 立教大学<br>(教職課程)            | 教職課程<br>「特別活動の研究」           | 平成4年度     |
| 昭和女子大学<br>短期大学部<br>生活文化学科 | 児童福祉実習<br>老人福祉実習<br>障害者福祉実習 | 昭和56年度（頃） |
| 東北福祉大学<br>(一般教育科目)        | 福祉活動                        | 平成5年度     |

表2 「社会奉仕実習」の概要

|      |                                                                                                                                                                          |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 〔対象〕 | ・計画・環境コースの2年次学生（学生数50～60人）各学期20～30人<br>・形式上は選択科目であるが、前期・後期に振り分けてほぼ全員が参加するよう指導する。                                                                                         |
| 〔目的〕 | ・土木技術者の仕事の基本理念は「社会奉仕」である。その理念を身を持って体験する。<br>・社会的弱者の立場を理解する。<br>・自分から新たな関係を作っていく能力を身につける。                                                                                 |
| 〔内容〕 | ・以下の3項目によって科目を構成する。<br>①講義4回分のオリエンテーション（うち2回は外部講師）<br>②ボランティア活動（休日・夜間ならば20時間以上、夏期・冬期休暇中ならば40時間以上）、<br>③社会奉仕実習発表会（1日）<br>・福祉施設などでのボランティアだけでなく、道路や河川の清掃といった土木関連プログラムも用意する。 |
| 〔教員〕 | 指導にあたるのは、教授3名、助教授1名、助手3名の計7名<br>教員1人につき学生4～5人の担任制をとり、学生の個性にあった活動ができるようきめ細かく対応する。                                                                                         |
| 〔単位〕 | 選択科目、2単位（半年）、前期も後期も開講する。単位は認定するが「優・良・可」の成績評価はしない。                                                                                                                        |

#### 4. 社会奉仕実習の評価計画

4月から試行する「社会奉仕実習」の評価は、表3に示すようにおおまかに分けて3種類を計画している。これは、教育心理学が専門の梶田<sup>2)</sup>の挙げた、教育活動の枠組みの評価観点の分類をもとにしている。具体的には以下の①～④の調査方法を計画している。

表3 教育評価の計画

| 評価の目的                           | 調査名                  | 調査方法                                                                  | 評価されるもの                                   | 評価する人                                |
|---------------------------------|----------------------|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|--------------------------------------|
| 社会が大学土木教育に持つ期待と現実               | ①期待される土木工学科の卒業生像     | 文献調査<br>・経済同友会の調査<br>・土木学会大学土木教育委員会の報告などを利用する                         | 大学土木教育の現状                                 | ・企業経営者<br>・官庁、企業、研究所などの土木技術者<br>・その他 |
| 大学土木教育における社会奉仕実習の効果             | ②土木技術者の在り方のインベントリー   | インベントリーを作成し、それぞれの項目に当てはまるかどうか、3段階で回答、因子分析をする。また、同一個人の事前事後の比較をする       | 学生個人の事前と事後<br><br>社会奉仕実習に参加するグループとしないグループ | 教員など評価項目の設定をする側                      |
|                                 | ③自由記述式アンケート          | 設問に対する自由記述方式のアンケート                                                    |                                           | 評価軸を設定した後、教員などの評価者が読んで評価する           |
| 社会奉仕実習と他の教育手法との効果および教員の労力に関する比較 | ④各種教育手法とその効果に関する比較分析 | 土木技術者に要求される能力の階層的構造を設定し、重みを付けた上で、それぞれの教育手法の効果を比較する教員の労力や費用についても比較検討する | 社会奉仕実習の他に、講義、実験、卒業研究などの各教育手法              | 土木工学科教員                              |

社会奉仕実習の検討は筆者らの他に、土木工学科の篠原、佐佐木、竹原、北川、武田の各氏が参加している。

#### <参考文献>

- 1) 総理府：生涯学習とボランティア活動に関する世論調査，1994.
- 2) 梶田 毅一：教育評価，p14-15，有斐閣，1983.